

■伊方原発運転差止訴訟 第36回口頭弁論

日時：8月22日(火) 10:00 開廷 松山地方裁判所31号法廷
 8:45=原告集合 9:15=支援者集合 (裁判所ロビー)
 (被告四電側2人の証人尋問を予定)
 問い合わせ先：伊方原発をとめる会 (TEL 089-948-9990)

■学習会：性教育バッシングを検証する～旧統一教会とのつながり～ お話：菊池準子さん

日時：8月26日(土) 13:30～15:30
 会場：コムズ視聴覚室AB
 参加費：500円
 主催：議会に女性をおくる会 (TEL 089-977-8834 中野さん)

■秋の平和学習会「戦争と選別 ―今教育現場で行われていること―」

講師：野田正彰さん(精神科医)
 日時：9月3日(日) 13:30～
 会場：コムズ視聴覚室AB
 主催：市民の広場 (TEL 090-6147-1676 松尾さん)

■「ルイズその旅立ち」上映会

日時：9月10日(日) 14:00～
 会場：愛媛県男女共同参画センター2F視聴覚室(山越町450番地)
 会費：1000円
 主催：杉を見る会 (TEL 080-4034-8306 中村さん)



■ドキュメンタリー映画「放射線を浴びたX年後III『Silent Fallout (サイレント・フォールアウト)』乳歯が語る大陸汚染(伊東英朗監督) 上映会

日時：9月2日(土) 13:10～ (上映後、伊東監督のトーク)
 会場：サイボウズ松山オフィス(二番町3-7-12 QUALITA MATSUYAMA)
 参加費無料(ドネーション制)
 主催：ゆうき生協 (TEL 090-3788-4467 野中さん)

日時：9月24日(日) 10:00～ 13:30～
 会場：コムズ視聴覚室AB
 資料代：500円
 主催：伊方原発をとめる会 (TEL 089-948-9990)

■9・19 安保法制(戦争法) 強行採決8年 抗議集会

日時：9月19日(火) 18:00～
 会場：松山市駅前・坊っちゃん広場
 主催：安保法制(戦争法)の廃止を求める愛媛の会 (TEL 089-913-0448)

■きむきがんひとり芝居「在日バイタルチェック」

日時：9月23日(土) 13:30開場 14:00開演
 会場：日本キリスト教団松山教会ホール(松山市味酒町2-7-1)
 料金：前売り2500円(当日3000円)
 主催：愛媛公演実行委員会 (TEL 090-8281-5079 高さん)

■第37回伊方集会

日時：10月22日(日) 10:00～ (午後は交流会を予定)
 場所：四国電力伊方原発ゲート前
 主催：原発さよなら四国ネットワーク (TEL 090-6147-1676 松尾さん)

武井事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。お気軽にお立ち寄りください。



生き生き政治ネット

松山市衣山2-4-47、2F
 TEL/FAX 089-924-2485
 ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp

2023年8月7日発行

カラフルドットライフ設立記念講演会に参加して



パネルディスカッション

7月1日にサイボウズ松山オフィスで行われたカラフルドットライフ設立記念講演会「同性パートナーシップ制度を愛媛・松山へ」に参加しました。講師は、上川あや世田谷区議、増原裕子氏(明石市政策局インクルーシブ推進室)。お二人からパートナーシップ制度導入の経緯や現状についてのお話がありました。ご存

じの通り世田谷区は渋谷区とともに2015年に同制度を施行したことが話題になりましたが、上川区議のお話は、LGBTQ当事者(トランス女性)としての経験・苦労も下敷きになっているのかもしれませんが、同性愛者の権利を主張し区に認めさせていく説得力・交渉力・ノウハウは感心するものがあり、他の自治体の参考になるものと思えました。

愛媛県では大洲市、今治市が同制度をスタートさせていますが、松山市は四国4県都で唯一制度を導入していません。県も先日の議会での武井県議への答弁を聞き限り、積極的に前へ進めて行くという姿勢は感じられません。

先の国会では「LGBT理解増進法案(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律案)」が通りましたが、当事者の方たちからは「LGBT理解抑制法」だという声も上がっています。どうも自民党の何割かの議員や、宗教団体、右派団体の方たちは同性婚は絶対いやだということのようです。

本来と言えば、同性パートナーシップ制度や同性婚を認める法律などは不要なはずなのです。婚姻制度ができるときに、異性・同性に関係なく好きな人同士が結婚できる法律でないといけなかったのです。そんな当たり前のことが通る社会になるよう前に進めていきましょう。

前田 勇次(生き生き政治ネット世話人)

小冊子「私とコロナと3年間(仮称)」への原稿を募集します!

あなたの「私とコロナ」を存分に語って下さい!

コロナによる初めての緊急事態宣言が発出された2020年5月から、コロナが第5類に認定された2023年5月まで「コロナに怯えコロナに明け暮れコロナに振り回された」3年間でした。

この3年間は、私たちの暮らしや人間関係、仕事などにどんな影響を与えたでしょうか? コロナに対する様々な施策は、本当にあれで良かったのでしょうか? 私たちの記憶や社会の関心が薄らぐ前に、記録に残しておきませんか?

- * コロナで変わった私の暮らし、考え方 * コロナに感染した体験
- * 疑問に思うこと

皆さまの原稿をお寄せ下さい。内容も字数も問いません。お寄せ頂いた原稿は小冊子にまとめさせていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。



生き生き政治ネット(武井たか子を支える会)

栃木県若年者支援機構に見学に行きました



調理師で、オムライス専門店を出てくるような見事なオムライスを作るのに、不器用でミスが多いばかりに仕事を辞めざるを得なくなった青年がいました。腕も良く合理的配慮をしてもらえれば活躍出来るのに何故このようなことになってしまったのか残念で、このような若者が働ける場所が松山にもつくれるかと思ったのが見学に行ったきっかけです。

一つの事業所なのですが、近い場所に幾つもの支援機関があったのが印象的でした。

- ・ひきこもり総合相談センター
- ・保護者セミナー
- ・就労・自立に向けたお手伝いをする若者サポートステーション
- ・学びなおし教室
- ・発達凸凹を持つ個性豊かな子供たちの個別指導クラス
- ・生活更生のサポート
- ・親と子どもの居場所づくり
- ・畑で野菜作りからすることも食堂
- ・中間的就労訓練
- ・キャリア教育授業

など、一箇所ずつ車で案内していただいたのですが、困難を抱える若者のための沢山の支援事業が充実していて感動しました。

松山にも是非このような場所が必要だと感じました。この問題に関心がある方、お声掛けください。
白石 美保

学習会のご案内 性教育パッシングを検証する～旧統一教会とのつながり～

皆さんにお伝えしたいことがいっぱいあります！

安倍元首相が亡くなって1年、旧統一教会と政治との関係、うやむやになっていないでしょうか。旧統一教会が政策に与えた影響についてもっと深く検証すべきだと思います。

とくに攻撃を受けた男女平等や性教育はどのような結果をもたらしているのか、私たちはひも解いて見る必要があると思います。ぜひご参加ください。

お 話：菊池 準子さん

日 時：8月26日(土) 13:30～15:30

会 場：コムズ視聴覚室 A B

参加費：500円

主 催：議会に女性をおくる会

(TEL 089-977-8834 中野さん)



菊池 準子さん

元小学校教諭 いのちを守る「食」と「性と生」をテーマに「食愛♡Kitchen～くらぶ♡きっちゃん～」を主宰。一般社団法人「人間と性」教育研究協議会四国ブロック幹事

「いのちと環境を守る えひめミーティング2023」に参加して

講演の後のミーティング



7月9日、大洲市の肱南公民館で開催された「西日本豪雨水害から5年＊記憶のための講演会」「いのちと環境を守る えひめミーティング2023 『ダムに頼らない肱川の治水を！』～人の暮らしと自然をまもるために～」に参加してきました。

講師は、徳島県木頭村村長として、2000年に細川内(ほ

そごうち)ダム計画を中止に追い込んだ藤田恵さんと、公共事業の費用対効果を考えよう、公共事業には「情報公開」と「住民参加」が不可欠という除本理史(よけもと まさふみ)さん(大阪公立大学教授、環境政策論、環境経済学)。

〔二人の講師のお話の詳細は、武井議員の『県議会報告No.22』をご覧ください。〕

国土交通省山鳥坂ダム工事事務所が建設予定地に設置した看板には、「山鳥坂ダムは一級河川肱川の支流、愛媛県大洲市を流れる河辺川に建設する高さ約95m、堤頂長約279mの重力式コンクリートダムです。山鳥坂ダムは『洪水被害を減らすこと』と『豊かな水の流れを保つこと』を目的としています」とあります。本当でしょうか。

そもそも山鳥坂ダムは、松山への飲料水を供給するための「中予分水」のために計画されたもの、「中予分水」がなくなったのだから、当然、山鳥坂ダム計画も中止すべきものでした。ところが、地滑り対策の必要性から建設場所を移動させて、事業費が大幅に膨れ上がり、工期が伸びてしまっても、「利水」から「治水」へとダムの目的を変えてまで、計画が生き延びているのです。松山市民にとっては、とくに終わったことになっていて、地元の方たちには申し訳ない気持ちです。

肱川の「治水」というのであれば、堤防の整備や河川の掘削の方が、より早く安く、高い効果が得られると地元の人たちは主張してきました。西日本豪雨水害では、想定以上の雨が降れば、ダムは洪水調節機能を失い、最悪のタイミングで放流し、かえって大きな被害を招いてしまうことを証明してしまったのです。

講演のあとは、参加者の皆さんで活発な意見交換がもたれました。長い闘いを続けてこられた現地の皆さんの声に触れることができました。印象に残ったことは、地元の方は、色々なしがらみがあって、反対の声を上げられない、本音を語れないということです。これは、原発立地地域と共通の問題です。そして、住民の声を国や行政に届けるためには、愛媛で市民派の自治体議員をもっと増やしていこうということでした。

一度始めてしまった公共事業は、状況が変化し、地域住民が望んでいなくても、見直しや撤退が、なぜできないのか。この国のシステムは本当におかしなことになっています。



建設予定地の看板